

[様式第2号の作成方法等]

1 使用様式

一次選抜、二次選抜、帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜、連携型中高一貫教育に関する選抜、通信制の課程の選抜、秋季入学のための選抜において、様式第2号を使用する。

なお、中学校に就学すべき期間の全部において外国の学校（施行規則第95条第2号に規定する在外教育施設を除く。以下同じ。）及び日本国内における外国人学校に在籍する志願者は、調査書に替え、外国の学校又は日本国内における外国人学校における成績証明書を提出する。

2 作成基準日

- (1) 一次選抜、二次選抜、帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜、連携型中高一貫教育に関する選抜、通信制の課程の選抜

第3学年の1月末現在で記入する。

- (2) 秋季入学のための選抜

第3学年終了時で記入する。

- (3) (1)にかかわらず、過年度卒業者については、第3学年終了時で記入する。

3 課程欄、本・分校欄及び学科等欄

課程欄には全日制、定時制、通信制又はフレキシブルの別を、本・分校欄には本校・分校の別を、学科等欄には志願学科・コース名をそれぞれ記入する。

4 番号欄

各学級の出席簿どおりの名列番号を記入する。ただし、同一学級内で男女がそれぞれ1番から始まる番号となっている場合は、通し番号にする。

なお、各生徒の番号は、全ての選抜において同一のものであること。

5 学習の記録欄

必修教科の評定について、次のとおり記入する。

- (1) 第1学年及び第2学年については、指導要録の学習の記録の必修教科の評定をそのまま用い、5段階評定で記入する。第3学年については、5段階評定による評点を3倍して記入する。

「計」には、教科ごとに、第1学年から第3学年までの評点の合計点を記入し、「合計」には、各教科の「計」の合計点を記入する。

- (2) (1)にかかわらず、中学校の中途において外国の学校から編入学したことにより、指導要録に5段階評定が記載されていない学年がある場合、調査書における当該学年の欄は空欄とし、「計」及び「合計」においては、空欄を0とみなして計算した数値を記入する。

また、備考欄に、在籍していた外国の学校名（国名・校名）及び編入学日を記入するとともに、外国の学校に在籍していた期間における成績証明書を調査書に添付すること。

- (3) (1)にかかわらず、特別支援学級又は特別支援学校の中学部の卒業（見込）者について、各教科等の活動の記録を記述形式で指導要録に記入している場合にあっては、記述形式により備考欄を使用して記入する。

なお、欄が足りない場合は、裏面を使用してもよい。

6 その他

- (1) 該当事項のない場合は空欄でよい。
- (2) 提出に当たっては、課程別、本分校別、学科・コース別とし、学級順・番号順に重ね、左上とじ込みとすること。